

令和8年(2026年)1月16日外部評価実施

柴原地域包括支援センター(北西部圏域)

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】 令和7年12月1日現在

圏域人口:73,661人 (前年12月1日時点 73,447人)

高齢者人口:17,389人 (前年12月1日時点 17,349人)

高齢化率:23.61% (前年12月1日時点 23.62%)

【圏域の地域特性】

桜井谷・桜井谷東校区は戸建て中心の住宅街と、マンションが数多く立ち並ぶ地域とで構成されています。それぞれの住民層が異なるという特徴があります。また、桜井谷校区は坂が多く、買い物ができる場所が少ないことや、両校区の地域活動の拠点が桜井谷校区側にあり、拠点から離れた地域に住む高齢者にとっては、途中で坂道もあり参加が難しいという課題があります。このことは避難場所からも遠くなるという課題にもつながっています。

刀根山校区は地域全体が丘陵地で坂が多いという特徴があります。また地域にはスーパー等の商業施設が殆ど無く、高齢になると買い物等が困難になる課題があります。自治会の数、加入者数は減少し、地域とのつながりが少なくなっている住民もいます。地域活動は盛んであり、各種イベントや防災訓練、見守り活動など活発に行われていますが、各種役員の高齢化等の課題も挙がっており、地域の中で新たな力が求められています。

大池校区は校区の南側に阪急豊中駅があり、周辺には多くの商業施設や地域活動の拠点である大池小学校があります。神社、教会、寺院の数も多く、歴史のある街並みが広がっています。一方で校区の地域活動の拠点から離れた場所に住む高齢者にとっては、バスに乗って向かう等の方法がありますが、やはり参加がしにくいという課題があります。近年はマンションが増え、若い世代の転入が増加し、高齢化率が低下しています。防災訓練も活発であり、住民主体の見守り活動が定期的に行われています。

蛍池校区は商業施設等が阪急蛍池駅周辺に集中しています。地域活動の拠点も蛍池公民館、市の施設、図書館等が入った駅前の建物です。そのため、校区周辺の高齢者にとっては、駅へ向かう道が緩やかな坂になっていることもあり、負担に感じています。しかし、住民同士の昔ながらの近所付き合いや、校区福祉委員会等の地域活動は活発に行われています。自治会の数は多いですが、近年は以前よりも会の数、加入者が減ってきており、防災訓練等にも影響が出ています。一方で、地域の中で避難場所が数多くあることは特徴であり、利点として挙げられます。

箕輪校区の地域活動の拠点は校区の南側にある箕輪小学校です。校区福祉委員会、民生委員、公民分館、自治会等が中心となって様々な取り組みを展開されています。しかし、校区の北側から向かう途中の急な坂の課題、また校区の西側から向かう際に道幅の広い国道大阪池田線を渡る必要がある等、環境的な課題があります。ただし最近では、地域で新たに通いの場が立ち上がったことや、地域のグループホームによる地域貢献への取り組みも始まりつつあります。更に子ども食堂など、圏域内の共同利用施設を利用した取り組みについても定着してきている等、校区の中で活動の拠点が徐々に増えてきているのが特徴です。

【医療・介護支援】

圏域内に市立豊中病院、大阪刀根山医療センターという、市内有数の総合病院があります。阪急豊中駅周辺を中心として、各科のクリニック、診療所も多くあります。また、特にモノレール少路駅の周辺地域は、在宅療養支援診療所の数も多く、在宅医療体制が充実しています。圏域の他の地域ではクリニック、診療所が少ないところもあるため、そこに住む高齢者にとっては選択肢が限られてしまう、という課題があります。

訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、介護保険施設、サービス付き高齢者住宅など、介護資源が他の圏域と比べて数が多いのが特徴です。新規開設の訪問看護ステーションも増加しており、そのメリットを今後どの様に生かしていくかが求められています。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

- ・豊中市地域包括支援センター運営方針を基本としつつ、圏域の特徴に応じた事業計画を立て、実行します。
- ・地域包括ケアシステムの深化、更に地域共生社会の実現をめざし、地域住民や多機関との重層的支援体制の構築を意識した事業展開を行います。

【特に力を入れて活動している点】

- ・地域アセスメントの手法の確立をめざし、情報収集ツールの見直しを行いました。そして全職員で意識して地域のつづやきを集め、集積しています。
- ・見出された地域課題に対して、地域とコミュニケーションを取りつつ、関係機関にも協力を求めながらイベントを開催し、地域に必要な社会資源を生み出すための仕掛けづくりを行なっています。地域包括ならではの連携力を生かすことを心がけています。
- ・防災を切り口として、地域住民と事業所の連携体制構築のきっかけづくりに取り組みました。今後も継続して取り組み、地域、事業所それぞれの課題解決につなげます。
- ・圏域内のオレンジカフェの機能の強化と充実をめざし、認知症当事者、家族、オレンジカフェ主催者、行政その他関係機関との連携に努めました。また、チームオレンジの構築や若年性認知症の支援体制強化をめざし、他の圏域の包括と合同でイベントを実施しています。その他、認知症当事者だけでなく家族がくつろげる様な居場所づくりにも力を入れています。

【活動の中での課題やその解決策】

地域アセスメントは地域包括が地域の中で真に効果的な事業を展開する上で、最もベースとなる作業ですが、まだまだ改善の余地があります。地域包括は地域住民の声を直接聞く機会が数多くあるというメリットがあります。その貴重な声を集め、真にその地域に必要な社会資源を生み出していくことが求められています。地域住民や関係機関と接する際には、意図的に想いを聞き取る姿勢が必要です。その上で、現在リニューアル中の地域アセスメントシート「つづやきシート」を効果的に活用していきます。

総評

【特徴的な取組内容】

- ① 今年度は地域アセスメントに注力し、地域の現状把握や、地域で協働・協力いただける地域密着型サービス施設の拡充等が行われていることによって、地域全体として取組みが広がっています。
- ② 防災課題を中心に、地域と地域事業所が協力し、協働できる体制づくりが進行中です。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- ① 新たに把握した地域課題や、今年度着手した地域住民・地域社会資源との協働の拡充で、地域課題解決等に向けた取組みの深化を期待します。